

1	総論——なぜいま科学／技術なのか……………	中村雄二郎……………	1
一	時代のなかの科学／技術……………		2
二	〈科学の非可逆的進歩〉と〈文明の逆行〉……………		5
三	〈原爆の知〉……………		12
四	宇宙科学と核の科学の帰趨／地球と人間への新たな問い……………		17
五	ヒトゲノムという問題……………		22
六	内なる地平から人間を脅かすもの……………		27
七	科学／技術と文化……………		32
2	エピステーメーとテクネー……………	小池澄夫……………	35
	はじめに……………		36
一	エピステーメー／テクネーと科学……………		39
二	科学的世界像に固有な特徴……………		48

三 知識の見取図 55

3 近代科学のテイクオフと《方法的制覇》……………小林道夫……………65

——デカルトにおける近代の科学／技術の設定

序 66

一 「数学的自然学」の構想と「方法」の設定 67

二 自然哲学の原点——「物心の二元論」と「永遠真理創造説」 71

三 デカルトの哲学と自然学の基礎づけ 74

四 デカルトの自然学——近代科学のテイクオフ 78

五 機械論的自然学と生理学の設定 81

六 デカルトにおける科学／技術と道德・倫理 84

4 科学の変貌と再定義……………野家啓一……………93

一 「科学」という言葉 94

二 二つの「科学革命」 100

三 二〇世紀の科学哲学 107

四 八〇年代以後の科学論 115

5 技術の変貌と再定義 土屋 俊 127

はじめに 128

一 手段としての技術——道具の非倫理的性 131

二 技術の変貌 138

三 倫理的技術論の可能性 148

6 制作の回路 河本英夫 155

一 懐疑的反省は何を超えてしているのか 158

二 物を作るさいには何を選択してしまっているのか 166

三 知覚と行為の場——荒川修作とともに 173

7 生物の論理 矢原一郎 185

——物質の科学と生命の科学

	はじめに	186
	一 自然の階層性	187
	二 進化のブリコラージュ	189
	三 生物体を作り上げるプログラム	190
	四 クローン羊ドリー	197
	五 細胞が感知するストレス	202
	おわりに 合目的性とプログラム	214
8	精神の科学は可能か	219
	一 精神ないし内面性の私的性格	220
	二 私的内面の拡大	223
	三 境界としての内面あるいは「こころ」	228
	四 「コウモリであるとはどのようなことか」	232
	五 潜在的な複合一人称の視点	238
	六 精神の科学は可能か	242

木村 敏……………219

9 ニュー・サイエンスの問題点……………伊藤 笏康……………247

一 評価の視点……………248

二 多様な理論……………250

三 ニュー・サイエンスの構造……………254

四 ホログラフィック・パラダイム論争……………260

五 ニュー・サイエンスの問題点……………263

六 全体のまとめ……………269

